

平成26年 3月

# 徳嶋靖子 学位論文審査要旨

主 査 尾 崎 米 厚  
副主査 吉 岡 伸 一  
同 黒 沢 洋 一

## 主論文

Psychological factors and mortality risk in a rural area of Japan

(日本の農村地域における心理的要因と死亡リスク)

(著者：徳嶋靖子、細田武伸、岡本幹三、黒沢洋一)

平成26年 Yonago Acta medica 掲載予定

## 参考論文

### 1. 看護学生の思いやり行動と自我状態の学年比較

(著者：梅津靖江、吉岡伸一、福田倫子、徳嶋靖子、仁科祐子、原口由紀子、松浦治代、  
乗越千枝、矢倉紀子)

平成21年 米子医学雑誌 60巻 192頁～201頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は農村地域における40～79歳の住民4,409人を対象として17.6年間追跡した長期コホート研究により、心理的要因による死亡リスクを検討したものである。ベースライン時に健康状態、生活習慣、社会・心理的因子に関する自記式質問票調査を行い、エンドポイントを死亡としてCox比例ハザードモデルを用いて生存分析を行った。その結果、生活習慣や社会的要因を考慮しても、「他者から頼られているという感覚」を持っていない人ほど死亡リスクが高まり、その傾向が女性よりも男性に強いことが判明した。本論文の内容は、健康長寿をめざす公衆衛生学の分野で、他者から頼られるという感覚を持つことが長寿の要因の1つとして有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。